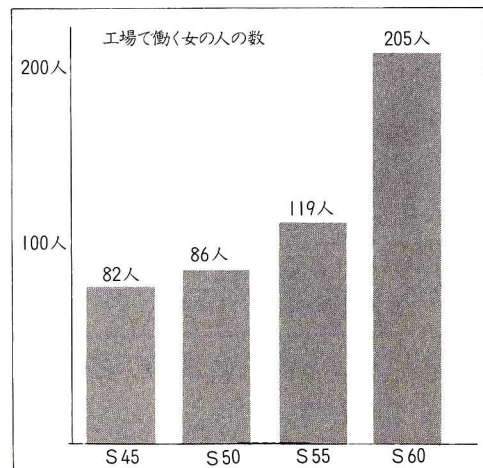
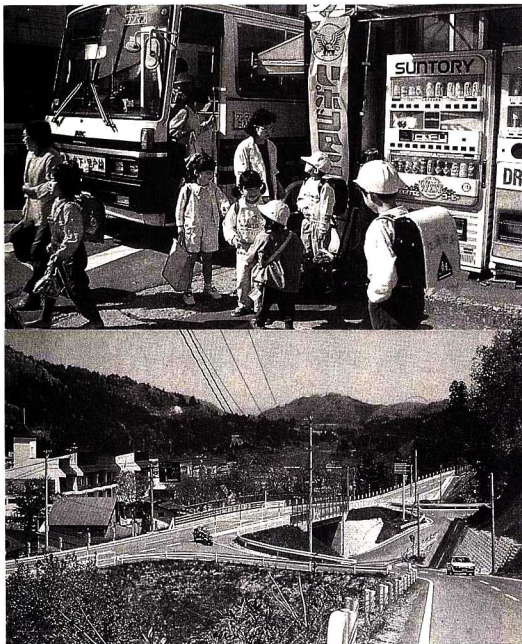


〈三島大橋ができたころ〉 15年前のころから

宮下^{ちく}地区と西方地区の間には、只見川という大きなし
ょうがいがありました。遠まわりの宮下発電所近くの高
清水橋だけでしたので、宮下と西方を近くでつなぐ橋が
のぞまれていました。昭和50年にようやく「三島大橋」
が^{かんせい}完成しました。さらに51年6月から町営バスが走る
ようになりました。高校生の通学、工場への^{つうきん}通勤、お年
よりの病院通いなど生活に大切な足となりました。



女の人たちの工場ではた
らく数がふえ、家の中のし
ごとにも、電気をつかった
道具を使うようになり、らくになってきました。衣・食・
住、生活全体にわたり、とてもゆたかになってきました。

50年代には、自動車が一家に一台になり、道路がど
とのえられてきました。